

MABI PAPERは#おかやまJKnoteの高校生目線で被災地や支援者の声を届ける新聞です。

MABI PAPER

TAKE FREE

発行#おかやまJKnote
〒700-0026岡山県岡山市北区
奉還町3-1-30 SGSS
info@jknote.work

西日本豪雨災害から1年

西日本豪雨災害から1年経ちました。私たち#おかやまJKnoteは災害から1か月後の2018年8月、倉敷市真備町の声を高校生目線で届ける新聞「MABI PAPER」創刊しました。翌年3月まで16号の発行をもって終刊しましたが、豪雨災害から1年、真備での支援はどのような形で継続しているのかをお伝えするため、1号限定で復活いたします。

ぞうきんプロジェクト

ぞうきんプロジェクトは去年の真備の水害から始まった被災者の要望に応じて雑巾・タオル・掃除用具などの提供を目的とした始まった支援プロジェクトです。昨年7月の発災直後から活動を始め、呼びかけに賛同した約380名のメンバーがいます。岡山県内をはじめ全国より雑巾などの清掃用具を被災者の要望に応じてボランティアで集めています。岡山市内などの一時保管場所に保管し、自治体・各地と連携しながら、笠岡市・高梁市などの被災地へ必要な清掃用具を提供しています。



2019年6 倉敷市立川辺小学校へ雑巾を寄贈

活動は昨年7月以来、継続して行われており、今年6月12日

には真備町の川辺小学校に300枚の雑巾を寄付しました。この雑巾は二学期に向けて学校で使われるようになっていきます。川辺小学校付近では浸水被害により、ミシンが被災した家庭が多く、雑巾を縫うことができないのです。2018年7月7日から25644枚の雑巾、タオル等が提供されています。また、雑巾やタオルだけではなくゴミ袋など必要とされているものも支援しています。被災者の心に寄り添った活動を続けられています。まだまだボランティアメンバーを募集しています。少しでも力になりたいという方は、是非応募してください。

ぞうきんプロジェクトお問合せ先 takahiroshiraiphoto@gmail.com

ぞうきんプロジェクト代表の白井崇裕さんにインタビューしました。

Q真備の豪雨から一年たって今思っていること

A真備の川辺小学校が被災して、先生たちと話していて復興はまだまだこれからだと思っています。ミシンなどが被災しているので1年経っても生徒のお母さん方は、雑巾が縫えなくて困っていると聞いています。ぞうきんプロジェクトでは、今も継続して学校に雑巾を届けています。

Q雑巾プロジェクトについて、この一年間でよかったなあと思ったこと

Aぞうきんプロジェクトが広がりを見せて、小学校の生徒さんたちが本当に多くの雑巾を集め、中学校・高校の生徒さんはミシンで雑巾をたくさん縫ってくれた。この事は、とても心強かったです。

Q今後に向けて

Aみんなの災害意識が薄れる中で、災害を忘れずに防災意識を高める活動についても考える必要があると思います。そして長期の支援の仕組みが必要だと思っています。

取材担当者の感想

代表白井さんの「学生さんたちの活躍だ。小学校の生徒さんたちが本当に多くの雑巾を集め、中学校・高校の生徒さんはミシンで雑巾をたくさん縫ってくれた。この事は、とても心強かった。」と言われていましたが、私たち高校生世代を含め、学生であっても復興のためにできることがあると実感しました。まだ学生だから何も出来ないという固定概念に囚われ過ぎず、学生だから出来ることも探していくことも大切だと思います。(熊谷日向子)

真備の中学生に聞く!!

昨年の7月、西日本豪雨で大きな被害を受けた倉敷市真備町。そんな中で真備地区を明るく元気にしようと2018年9月、地元の中学生5人(現在中2)が立ち上がり「MSB30」というグループが結成されました。グループ名は「真備(Mabi)」「生徒(Student)」「委員会(Board)」の英語の頭文字と、結成年(平成30年)を組み合わせるといふメンバーの想いが込められて付けられています。

そんなMSB30は昨年11月に「まびっこ秋まつり」を主催。昨年12月にはアリオ倉敷で開催されたMABI STUDENT FESでチャリティーブースを出展しました。ブースではそれぞれオリジナルの缶バッジやTシャツを作って販売したり、募金箱を設けて支援を呼び掛けました。

2019年3月3日、真備東中学校で行われた「DAGASHIで世界を笑顔にする会」のだかしのトーチ作りに参加。本番では、真備っ子たちを笑顔にしました。

そして6月4日には、メンバー4人が倉敷市役所を訪問し、青少年の健全育成を目的とした「倉敷市よい子いっぱい基金」に寄付しています。

MSB30の代表である安田伊織さん(中学2年生)にインタビューしました。

Q,活動を始めた時、どんな気持ちだったか?

A,みんなを笑顔にして真備を明るくしたい!

Q,学校の部活や勉強との両立は難しくなかったの?

A,自分はそんなに…でも他のメンバーは部活が忙しくてイベントと部活の大会がかぶったりした。

Q,「まびっこ秋祭り」と「マビフェス」のイベントをして大変だったことは?

A,スケジュールを見ながら時間通りに動くのが大変だった。

Q,いおりさんが思う真備町の魅力は?

A,自然が豊かなこと。

そこまで都会じゃないから地域との関係が深いこと。

人と人とがよくコミュニケーションをとるので、みんな顔馴染。

地域の人みんな仲が良く、ワイワイ遊んだりするところ。

たけのこも有名。

Q,活動を通して自分の成長したなあとと思うことは?

A, ●以前より人と話すことが緊張しなくなったこと。

●どんどん「挑戦してみたい!」と思うことが増えたこと。

●「これするまでやめない!」と諦めない力がついたこと。

(丸本華鈴)



2018年12月 MSB30代表 安田伊織さん(右)

MABI PAPER / MABI STUDENT FES 報告書

2019年3月31日発行(オールカラー 36ページ)

内容【第1部:MABI PAPER】概要、発刊の過程、第1号~16号内容解説、配布活動

【第2部:MABI STUDENT FES】概要、当日企画、準備の過程、【第3部:総括】協賛・助成・寄付、メディア掲載実績、スタッフ感想、MABI PAPER全バックナンバー

ご希望の方は直接SGSG事務局にて直接お渡しいたします。(無料)

郵送ご希望の方は82円切手4枚を

〒700-0026 岡山市北区奉還町3-1-30 SGSG事務局報告書係までお送りください。

ご協力ありがとうございました!

まび復興ボランティア団体・NPOシェアオフィス【まびシェア】とは!

長期的な被災地支援に民官組織が取り組むための拠点として「まび復興ボランティア団体・NPOシェアオフィス(通称:まびシェア)」を2019年5月7日(火)より真備町に開所しました。「まびシェア」は、平成30年度7月豪雨災害でも甚大な被害を受けた倉敷市真備地区を中心にNPOや企業、土業専門家組織などの各種支援団体の作業場及び合同オフィスとして機能しています。発災以降続けてきた「災害支援ネットワークおかやま(事務局:岡山NPOセンター)」による支援者の情報共有会議の開催や各種支援団体の事務作業や打ち合わせのスペース(シェアオフィス)として活用をしています。(水内仁瑚)

水曜~月曜の10:00~19:00(定休日火曜)
倉敷市真備町有井94番地 備南観光開発ビルA-205